

## 第1回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 議事概要

### 1. 開催の状況

(1) 開催月日：令和6年5月13日（月曜日）9：00～10：15

(2) 開催場所：えびなこどもセンター 201会議室

(3) 出席者：13名

（構成員12名及び議長の認めた者1名（海老名市教育委員会教育部次長））※1名（海老名市教育委員会教育総務課長）欠席

### 2. あいさつ

- 議長の伊藤教育長（海老名市教育委員会）より、市民との対話を重ねながら、県と連携して海老名市のフルインクルーシブ教育を推進していきたい旨、あいさつがあった。
- 花田教育長（神奈川県教育委員会）より、広く意見を聞き、海老名市のフルインクルーシブ教育について議論していきたい旨、あいさつがあった。

### 3. 報告

#### (1) 海老名市におけるこれまでの取組について【資料1】

- 事務局より、令和5年度の海老名市のインクルーシブ教育推進に係る検討状況について、資料1に基づき、報告がなされた。

#### (2) 海老名市のフルインクルーシブ教育について

- 伊藤教育長より、今後の海老名市のフルインクルーシブ教育について、市民等との「対話の場」の実施等の具体的な取組を含めた報告がなされた。

（主な意見）

- ・ 市民だけでなく、教職員との対話の場も必要ではないか。
- ・ 学校教育において、システムが変わることで、意識も変わってくるだろう。在籍や人員配置、学級規模についても課題として検討していくべきではないか。
- ・ 教育相談コーディネーターについて、これまでの枠組みではなく、より重要な役割を持たせるような位置づけに変えることで、フルインクルーシブ教育が推進されるのではないか。立場を明確にして、各学校に1名配置した方がよいのではないか。

### 4 議題

#### (1) 令和6年度海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議について【資料2】

- 事務局より、推進会議の設置・運営等、調査研究部会の設置及び外部評価・助言について、資料2に基づき、説明がなされ、その後協議を行い、資料のとおり確定した。

(主な意見)

- ・ 県の役割として、海老名市の取組を全県に共有していく必要があるのではないか。また、海老名市に限らず、他の市町村においても、いわゆる「通常の学級」の改革を進めていく必要性があるのではないか。

## (2) 令和6年度「対話の場」について【資料3-1、資料3-2】

- 事務局より、『対話の場』フルインクルーシブ教育～みんなで考えよう 海老名の教育～の実施計画について、資料3-1に基づき、説明がなされ、その後協議を行い、資料のとおり確定した。

(主な意見)

- ・ 令和6年3月29日の協定締結後に、保護者等から、特別支援学校や特別支援学級に関する問い合わせが寄せられている。「対話の場」を開催することで、海老名市におけるフルインクルーシブ教育の推進について、市民の方々が安心できるようにすることが大切ではないか。

## (3) その他

- 構成員から取組全体に関わる意見等の発言があった。

(主な意見)

- ・ この取組はえびな支援学校をなくしていくというような取組ではない。えびな支援学校の存在は、海老名市のフルインクルーシブ教育推進において重要である。
- ・ えびな支援学校でも教職員の研修で、議論を重ねている。海老名市の小中学校と一緒に研修する機会があるとよい。
- ・ えびな支援学校の施設を見学させていただいた。これからの小・中学校の教育環境を考える上で参考になる点が多いと感じた。
- ・ 県として、まずは、海老名市に注力して取組を進めていくべきである。
- ・ 近隣の市町村教育委員会から海老名市の取組について問い合わせがきている。
- ・ 学校は子どもだけの施設ではなく地域の施設であり、学校応援団として地域のみんなで取り組む、まちづくりである、という意識が大切。

## 5 事務連絡

- 調査研究部会については、資料2にもとづき、6月中に第1回を開催予定
- 6月実施予定の「対話の場」については、資料3-1、3-2を参照
- 次回、第2回推進会議は、令和6年8月26日(月)に神奈川県庁で実施予定

以上